

## 平成26年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

### 《平成26年度全国体力・運動能力調査の概要》

#### 1. 調査の目的

子供の体力等の状況に鑑み、子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

#### 2. 調査の名称

「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

#### 3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第5学年および中学校第2学年

### 《全国体力・運動能力調査における笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

#### 小学5年生

小学5年生では男女ともに全種目で全国平均値を上回った。男子の上体起こし・長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅とびおよび女子の上体起こし・長座体前屈・反復横とび・50m走・ソフトボール投げでは、都道府県別平均第1位の県の平均値を上回っており、高い水準にあるといえる。

また、茨城県平均と比較すると、男女ともに握力を除く全種目で県平均を上回っている。

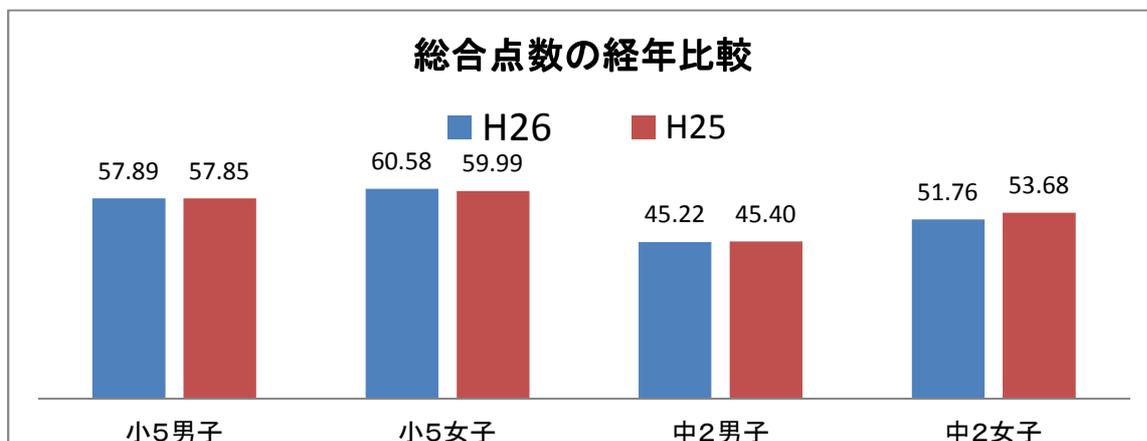
#### 中学2年生

中学2年生では、男子は全種目で、女子は長座体前屈および反復横とびを除く6種目で全国平均値を上回った。男女ともに、立ち幅とび・ハンドボール投げでは都道府県別平均第1位の県の平均値を上回っており、高い水準にあるといえる。

また、茨城県平均と比較すると、男女ともに上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走および体力合計点で県平均を下回った。また、女子の立ち幅跳びも県平均を下回った。

### 《笠間市の経年比較(総合点数)》

小学5年生男子では、平成25年調査の記録をわずかに上回る。小学5年生女子では同調査より1点近く高い。中学2年生男子は、平成25年度調査をわずかに下回り、中学2年生女子では同調査より1.92点下回った。



## 《全国運動習慣等調査における笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

### 小学5年生

- ・男女ともに、運動部の所属率が全国平均に比べ8ポイント以上低い。
- ・男女ともに地域の公園で運動をする割合が全国平均よりも低い。女子は公民館や児童館で運動する割合が全国平均より5ポイント以上高い。
- ・男女ともに、体育の授業で「よくできた／授業以外でも行ってみたい」と回答した児童の割合が全国平均より5ポイント以上高い。
- ・男女ともに、できないことができるようになったきっかけとして、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」ことを挙げた児童の割合が全国平均より5ポイント以上高い。特に男子は10ポイント以上高かった。

### 中学2年生

- ・男女ともに、運動部の所属率が全国平均より5ポイント以上高い。
- ・男女ともに、地域の公園で運動をする割合が全国平均よりも低い。一方、公民館や児童館で運動する割合が全国平均より5ポイント以上高い。
- ・体育の種目別に見ると、男女ともに水泳は「楽しかった／授業以外でもやりたい」と回答した生徒の割合がいずれも全国平均より5ポイント以上高かった。一方、ダンスは全ての設問(よくできたか／楽しかったか／もう一度やりたいか)で、「分からない」と回答した生徒の割合が男子で40%を、女子では30%を超えた。また、女子では、武道についても「分からない」と回答した生徒の割合が全設問で全国平均より5ポイント以上高かった。
- ・男女ともに、できないことができるようになったきっかけとして、「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」ことを挙げた生徒の割合が全国平均より5ポイント以上高い。特に男子は10ポイント以上高かった。

## 《笠間市の課題および取組》

### 小学5年生

男女ともに多くの種目で優れているが、握力がやや県平均を下回った。全小学校で中休みや昼休みに何らかの運動活動を実施している。種目としてはなわとびや秋から冬にかけてのランニングが多い。跳力や長距離走力の向上に繋がっているとみられる。一部の小学校では、準備運動としてサーキットトレーニング(うんてい、のぼり棒や鉄棒など複数の遊具をまわっていく運動)を導入し、握力を含めた筋力の向上に取り組んでいるところであるが、更なる取組が必要とみられる。

### 中学2年生

男女ともに上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走および体力合計点で茨城県平均を少し下回った。また、女子の立ち幅跳びが県平均を下回った。中学校では走力の向上に努めている学校が多く、20mシャトルランの記録からすれば、長距離走力がついている生徒が多いとみられる。一方で、柔軟性や跳力に対する取組が必要である。

小中学生ともに留意しなければならないのは、運動能力は個々人で得手不得手があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動に継続的に取り組むことが重要である。そのために、教育委員会や学校は、動機づけとなるような環境をさらに整備したり、授業の質を高めたりして、児童生徒の意欲や体力を引き出していく必要がある。